

山鳩

医療法人社団飯盛会広報誌
平成24年6月号(30号)



特集:防災への取り組み

医療法人飯盛会 倉光病院 副院長 上村敬一

理念

慈愛と奉仕の精神で
心安らぐ
医療と福祉を提供し
地域社会に
貢献します

Contents

特集:防災への取り組み
東北被災地視察報告

春の文化祭
デイケア喫茶活動スタート
新人さんいらっしゃーい
リレーエッセイ
診療案内

今回初めて「防災」をキーワードに特集を組みました。昨年3月、東北を襲った大震災は、その強烈な映像と共に、直接体験していない私にとっても衝撃的な出来事として記憶されました。被災された方々への支援を語る時も、実際に映像を見、支援している方々からの情報もあり活発な議論となりました。特に被災された方々が瓦礫の中から写真を必死に探しだし、家族や友人そして自分の、生きた時間を確認しようとする姿を見た時に、私は絆という言葉を実感しました。さて、世の議論は支援と共に、防災へと広がってきています。しかしいざ私達が災害に備えるとなった時に、その議論はどこか現実感が伴わず危機感の薄いものになりがちです。映像から圧倒的な津波の破壊力は想像できますが、見えない放射線汚染は闇雲に不安だけを煽ります。やはり見えない未来はリアルに想像しがたいのでしょうか？先日、宮城県精神科病院協会編集の「2011 東日本大震災の記録」を読み、精神科病院という現場がどのように被災され、どのように対処したか、関係者のリアルな証言に初めてふれました。やはり未来は過去・現在の連なりでした。自らの将来が見えないのは、自らの過去・現在が分かっていないということでしょう。今号の特集により私たちの防災の不十分さを自覚することになりましたが、同時にこれをスタートとして確かな未来を築きたい思います。

特集 防災への 取り組み



東北大震災の被災地を訪れて

外来治療管理部部長(事務長) 福澤真人

昨年の平成 23 年 11 月に、院長、入院治療部長(看護部長)と、福岡西部福祉会の方たちと一緒に、宮城県気仙沼市の光ヶ丘保養園を訪問いたしました。

光ヶ丘保養園は、宮城県気仙沼市波板地区という気仙沼湾の入江の近くに立つ精神科病院です。保養園の奥山園長先生ご夫妻とは、震災前より倉光院長をはじめとする当院先生方と親交がありました。震災直後は連絡が途絶え、インターネットなどを使い被災状況などを日本精神科病院協会へ連絡仲介したり、また衣類や生活用品を送らせていただいたりしてまいりました。

震災発生から半年以上が経過しており、復興は進んでいるものと思ってました。しかし、津波で流された後の何もない景色が、海沿いを通るたびに広がっていました。想像をはるかに超える広範囲の被災状況。津波の被害を目の当たりにすると、ただ驚くばかりで何と言ってよいのか言葉で表現することができません。

光ヶ丘保養園では大変貴重な話を聞かせていただきました。本当に大変なご苦労があったのでしょうか、奥山園長先生は何事もなかったかのように穏やかな表情で当時のことを教えて下さいました。1階が津波の被害に遭い食事や薬の提供に苦労されたこと。運よく流れてきた玄米を一升瓶の中に入れ、棒で突いて精米して食べたこと。それから、調理や暖をとるために家何軒分の瓦礫を燃やしたかわからないと話されたことも印象に残っています。

森看護部長からは、職員が自主的に交替で勤務し、自宅に帰っても自然と職場に戻ってきてくれるといった心温まる話を。そして、金野事務長からは、職員に給料を現金で渡す為の銀行との交渉や病院工事のための補助金申請といった苦労話を聞かせていただきました。

倉光病院でも防災マニュアルは策定しています。しかし、本当に災害が起きた時に役立つでしょうか。



光ヶ丘保養園の被災状況についての記事は「河北新報ニュース(河北新報社ホームページ)で見ることができます(地図は河北新報ニュースより引用)

http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20110709_01.htm をご覧ください。



災害に遭うと建物が損壊し、職員が減り、患者さまも他の地域へ移ってしまう。そんな状況を想定した中で、医療を継続して行うために何が必要かを考えていく必要があります。病院 1 階部分が災害で使用できなくなった時にどこで診察を行うのか。薬局はどこにするのか。食事提供はどうするのか。家に帰れない職員はどこに寝泊まりするのか。普段の生活からは考えられないことが実際に起こる。そのことを想定して防災マニュアルを見直す必要があることを教えられました。



春の文化祭 作品展示を行いました!!

4月14日(土)病院内にて、『春の文化祭』が行われました。文化祭では、おでんやぜんざい、フランクフルトなど患者さんとスタッフの共同の出店の他に、バザーや作業所の出店もありますが、メインイベントの一つとして、作品展示も毎年開催されています。

この一年で患者さん、スタッフが心を込めて作った作品が今年も数多く展示されました。また今年も、昨年 11 月に福岡市市役所で開催されたハートメディア作品展で入賞した作品 3 点も展示し、非常に華やかな作品展示となりました。

作品展示を見て下さった方からは、「一つ一つ作品がきれいで感動しました。」「とてもステキな作品展でした。」などの感想をいただき、また、作品展に出展した患者さんからは「がんばったかいがあった。」「作品展に出展できてうれしい。」などの感想が聞かれました。この作品展は、日頃の患者さんの成果を発表する貴重な場であり、またそんな作品をご家族や地域の方々に見ていただけることを、私たちスタッフも、とてもうれしく思っています。作品展示を見に来て下さり、アンケートにご協力して下さいました。ありがとうございました。また来年も文化祭に来ていただけることを、心からお待ちしています。(作業療法科 工藤未来美:作品展示担当)

特集 防災への 取り組み



当院の防災体制

防災委員会委員長 長瀬勝義

当院では防災マニュアルに基づき防災体制がとられています。飯盛会自衛消防隊編成表（昼間・夜間用：隊長＝院長、防火管理者＝事務長）、各部署の緊急連絡網などが記載されており、毎月第四月曜日には防災委員会を開催し、防災についての知識を高めています。



病院内には、緊急時、130人の患者さんに二日間対応できるよう、お湯や水で戻して食べられるアルファ米(600食)やお粥(180食)、水で出来る味噌汁(120食)、非常用保存水(2L×198本)などを保管しています。



また火災時避難訓練を、病院が年2回(5月、11月)、その他の施設(グループホーム、デイケア)では年一回の避難訓練を実施しています。



病院とグループホームでは、勤務しているスタッフが少ない夜間を想定して実施しています。過去には西消防署と合同で、はしご車を使った訓練も行いました。また消火器の交換時期には古い消火器を实际使用しての消火訓練も行っています。



先日、宮城県精神科病院協会が編集した「MIYAGI 3.11 2011 東日本大震災の記録」というレポートを読む機会がありました。当院では入院患者さんの最低現(2日分)の食事は確保していますが、その他ラジオや・ライト等や簡易トイレなどの防災用品の準備や、書類転倒防止ストッパーなどの対策なども必要であることを痛感しました。こうした話題は防災委員会でも取り上げられましたが、その後、時間と共に危機感が薄れているようで、議論が停滞しているようです。早急にこれらの対策が整備できるよう、防災委員長として今年度の課題にしたいと思います。



高齢者と防災

グループホームにおける防災

平成 18 年の長崎県大村市でのグループホーム火災以降、消防庁において認知症高齢者グループホーム等における防災安全対策が見直され、消防法の一部改正が行われました。これにより施設の広さに関係なく、消火器、自動火災報知設備、通報装置の設置が義務付けられるようになりました。当施設では開所時より全て設置されていましたが、福岡市からの指導、補助により昨年末に共用スペースにスプリンクラーを設置し、さらなる防火設備の整備を行いました。

現在、当施設ではひと度火災が起こると自力での避難が困難な方が多くおられる為、職員も様々なケースを想定し対応しなければなりません。

立派な防火設備を備えていても使いこなせなければ無用の長物。先の避難訓練では消防署協力の下、署員に立ち会ってもらい実際に通報装置を使って火災通報し入居者の方々を避難場所まで誘導しました。一番職員が少ない夜間を想定し短い時間で安全に避難誘導が出来るよう取り組んだ結果、消防署員の方からも適切な避難誘導が出来ていると優良施設の認定証をいただきました。

しかし職員から見ると、入居者が避難を理解できずに自室に戻られたり抵抗を見せる方がおられたりと反省点が顕になりました。また、自分で体を動かせない方の避難誘導等、改善の必要な問題も多くあります。これらを踏まえた上で、今後の火災や災害時において GH いいもりではマニュアルや職員の緊急連絡網の見直しを行い緊急時に素早く対応できる体制を整えていきたいと考えています。(いいもり防災委員 江頭勢津子)

デイケアにおける防災訓練

デイケア桜では、毎年秋に防災訓練を行っています。利用者様は足腰の弱い方や耳の遠い方もいらっしゃると思います。また、待機をお願いしてもすぐ動き出されたり、走って避難される方がおられるなど危険が多く伴います。

そこで職員が気をつけていることは、安全に落ち着いて避難できるようにマニュアルに沿って事前にしっかり避難行程を練っておく必要があります。誘導時は大きな声で誘導し、利用者様が慌てないよう、声かけや付き添いを行っていくことが大事だと考えております。

(重度認知症デイケア「桜」志谷道子)

喫茶「サンシャイン」オープン!!

精神科デイケア「フレンズ」では、社会復帰を目指すデイケアの就労前準備プログラムとして、昨年まで行い好評をいただいたレストラン「グリーングラス」を閉店し、今年5月より新たに喫茶活動を始めることとなりました。その名も、『喫茶 サンシャイン』です。

デイケアメンバーが、就労を目指し仕事をする上でのマナーや集中力、持続力、コミュニケーション能力などのスキル習得を目的に、それぞれが目標に向かって取り組んでいます。

男性メンバーのみで始動しますが、たくさんのお客様にご来店していただけるよう、一生懸命、真心込めた接客で対応していきます。

ぜひ、みなさんお越しください!!

場 所 病院 1 F 薬局前ロビー

時 間 毎週水曜日 10:30~11:30

メニュー

ホットコーヒー アイスコーヒー コーラ
オレンジジュース カルピス ウーロン茶